

報道関係者各位

2012年9月13日

子ども支援の国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン調べ
岩手県、宮城県の 15,000 人の子どもが回答に協力

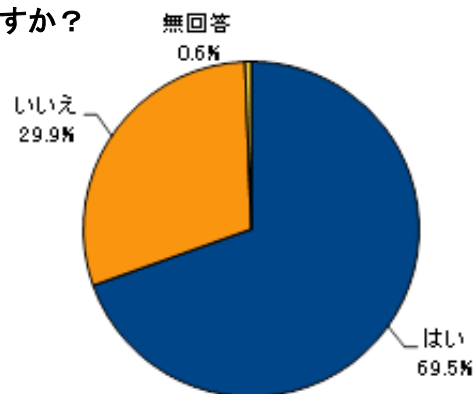
～まちの復興にかかわりたいけど、何をしたらいいのかわからない～

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

子ども支援の国際 NGO、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下 SCJ)は、東日本大震災支援事業のひとつとして、“子どもにやさしい地域づくり”を掲げ、子ども参加によるまちづくり事業“Speaking Out From Tohoku(SOFT)～子どもの参加でより良いまちに！～”を実施しています。震災から1年半が経過しようとしている今、復興に対する子どもたちの意識、子どもたちは何を求めているのか、子ども参加によるまちづくり事業の促進に何が必要なのかを知る手掛かりを探るため、宮城、岩手県内の3地域(岩手県山田町、陸前高田市、宮城県石巻市)、約1万5千人の子どもたちに地域の復興に参加することについてどのように考えているのかを調査しました。詳細はこちらをご参照下さい http://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?d=941

あなたは、自分のまちの復興にかかわりたいと思いますか？

	調査数	%
全体	14,600	100
はい	10,152	69.5
いいえ	4,363	29.9
無回答	85	0.6



調査結果から、約7割の子どもたちが「自分のまちの復興に関わりたい」と回答しており、子どもたちは積極的に復興に関わりたいという意思があることがわかりました。一方で関わりたくない子どもの理由として、「何をしたらいいのかわからない」「関わる機会がない」という子どもたちの率直な意見が得られました。また、「部活動や勉強で忙しいから」などの回答も上位にあがり、震災前の日常性を取り戻しつつあり、子どもたちは日々の生活に追われて十分な時間がないことも考えられます。復興に関わりたいと思う子どもの意思に反して、復興に対する情報や子ども参加の機会が提供されていないなど、子どもたちが復興に関わることのできる環境が整っていないことが課題であることが浮き彫りになりました。(詳細別途ご参照)

震災前より子ども参加事業を推進してきた SCJ は、昨年5月、被災地5地域(上記3地域、釜石市、東松島市)で約1万人の子どもたちに調査を実施しました。その結果を踏まえ、子どもたちがまちづくりに参加できる機会を提供するために、子どもまちづくりクラブを立ち上げ、現在、岩手県山田町、陸前高田市、宮城県石巻市で子ども参加によるまちづくり事業を実施しています。

< 昨年の調査結果 http://www.savechildren.or.jp/jpnem/jpn/pdf/20110705_HOV_SCJ.pdf >

本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 広報担当: 佐藤則子
 TEL: 03-6859-0011 FAX: 03-6859-0069 携帯 090-3521-4903
 E-mail: sato@savechildren.or.jp URL: www.savechildren.or.jp

I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、東日本大震災後の地域の復興に子どもたち自身が参加することについて、子どもがどのように認識しているかを把握するために実施した。その一方で、子どもが復興に参加するためには、大人のサポートが必要であるため、大人の「子ども参加」への意識をを知るために、大人に対しても調査を実施した。

2. 調査の状況

・調査地域：岩手県山田町、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市（SCJ「子どもまちづくりクラブ」実施地域）

・調査対象：

子ども…対象地域内にある学校に通う、全ての小学4年生～高校生、合計 16,171 人

（小学校 60 校、中学校 29 校、高校 15 校、特別支援学校 4 校：計 108 校）

大人…対象地域内にある全ての世帯、合計 69,782 世帯

・調査方法：

子ども…小中学校は教育委員会を經由し文書箱にて送付、高校は直接送付し、教師のガイダンスによる自記式で回答。特別支援学校については、必要に応じて教師のガイダンスを丁寧に行い、自記式で回答。

大人…自治体の協力のもと対象地域全世帯に配布し、各世帯の中で 19 歳以上の 1 名が自記式で回答。

・調査期間：2012 年 6 月 19 日～8 月 1 日

・有効回答数：子ども 14,600 件、大人 5,296 件

II. 結果概要

1. 子どもの結果について

子どもの調査結果の概要については下記の通り。詳細はⅢ以下を参照。

- ① 約 7 割の子どもたちが「自分のまちの復興に関わりたい」と回答し、子どもたちは昨年と同様に地域の復興に関わりたいと考えている。昨年実施した調査に比べ、「復興に関わりたい」と回答した子どもの数は減ったが、関わりたくない理由として「忙しい」が多く、日常性がある程度回復しつつあることが原因だと考えられる。
- ② また「復興に関わりたい」という意識は高いが、「実際に関わった」という子どもの数が少ない結果となった。
- ③ 「関わりたくない」「関わっていない」理由の中で「何をしたらいいかわからない」、「かかわる機会がない」が突出しており、子どもが復興に関わることについての情報や機会の提供が少ないことが原因だと考えられる。
- ④ セーブ・ザ・チルドレンの「子どもまちづくりクラブ」を知っている子どもの方が、「復興に関わりたい」、「実際に関わった」双方について割合が高い。

本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 広報担当：佐藤則子

TEL: 03-6859-0011 FAX: 03-6859-0069 携帯 090-3521-4903

E-mail: sato@savechildren.or.jp URL: www.savechildren.or.jp